

# 世 界 史

## 注 意

1. 問題は全部で13ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その1)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている)。
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

### マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	2	3	4	5	6	7	8	9	0
---	----------------------------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり折り曲げたりしないこと。

〔 I 〕 以下の文章を読んで、問題に答えなさい。解答用紙は(その1)を使用すること。

ローマ帝国以来存続してきた地中海世界は、375年に始まるゲルマン人の大移動と476年の西ローマ帝国滅亡、さらに7世紀のイスラーム勢力の西進によってその政治的・文化的統一性を失い、東ヨーロッパ・西ヨーロッパ・イスラームの三つの世界へと分裂することとなった。

西ヨーロッパでは、ローマ・カトリック教会が(ア)と手を結び、ギリシア正教会とビザンツ帝国に対抗した。カールの戴冠は、ローマ・ゲルマン的西欧世界の独立を象徴するできごとであった。民族大移動後の長い混乱の時期には、封建社会<sup>(a)</sup>が成立した。こうして出現したのが西ヨーロッパ中世世界である。

西ヨーロッパ中世はキリスト教の時代であり、ローマ・カトリック教会<sup>(b)</sup>の絶大な権威が人々の日常生活全般に浸透していた。世俗を離れた修行の場である修道院も、学問、教育、農業技術の発展に大いに貢献した。6世紀にベネディクトゥスがイタリアのモンテ・カッシーノに創立したベネディクト修道会は、清貧・純潔・服従のきびしい戒律<sup>(c)</sup>を修道士に課し、以後、その戒律は各地の修道院に広まった。

中世においては、学問もキリスト教の支配下におかれた。カール大帝は宮廷に学者を招き、ラテン語による古典文芸復興を起こした。これを(イ)という。この時期、教会の権威の理論的確立のために、信仰を論理的に体系化しようとするスコラ学も生まれた。12世紀になると、十字軍<sup>(e)</sup>をきっかけに東方との交流が盛んになり、ビザンツ帝国やイスラーム圏からもたらされたギリシアの古典がラテン語に翻訳され、それに刺激を受けて学問や文芸が発展し、12世紀ルネサンスを迎える。教師や学生の自治組織から各地に生まれた大学ではスコラ学が発達し、『神学大全』をあらわした(ウ)により大成され、教皇権の理論的支柱となった。

中世の美術<sup>(f)</sup>は、教会建築とその壁画などに代表される。11世紀には修道院建築を中心に、小さな窓をそなえた厚い壁で石づくりのアーチ型天井を支える重厚な(エ)が生み出された。12世紀になると、都市を中心に、尖頭アーチと空

高くそびえる塔を特徴とするゴシック様式の教会が登場した。壁を薄くする技術の進歩により広がった窓には( オ )が飾られ、射しこむ光により聖書の場面などが神秘的に表現された。教会の外壁や柱には彫刻がほどこされた。文学作品は、中世を通じて多くは( カ )であったが、11世紀頃から俗語による文学も登場した。キリスト教倫理と結びついた騎士道物語の作例として、( キ )などが知られている。

問 1 文中の( ア )～( キ )にもっとも適した語を下記の選択肢からを一つ選び、その番号をマークしなさい。

( ア )  1

- |           |          |
|-----------|----------|
| ① イタリア王国  | ② キエフ王国  |
| ③ 両シチリア王国 | ④ フランク王国 |

( イ )  2

- |               |          |
|---------------|----------|
| ① 北方ルネサンス     | ② 人文主義   |
| ③ カロリング・ルネサンス | ④ レコンキスタ |

( ウ )  3

- |             |             |
|-------------|-------------|
| ① ロジャー・ベーコン | ② トマス・アクィナス |
| ③ アリストテレス   | ④ グレゴリウス7世  |

( エ )  4

- |          |           |
|----------|-----------|
| ① バロック様式 | ② ルネサンス様式 |
| ③ ビザンツ様式 | ④ ロマネスク様式 |

( オ )  5

- |           |        |
|-----------|--------|
| ① フレスコ画   | ② モザイク |
| ③ ステンドグラス | ④ イコン  |

( カ )  6

- |         |        |         |         |
|---------|--------|---------|---------|
| ① イタリア語 | ② ラテン語 | ③ フランス語 | ④ ギリシア語 |
|---------|--------|---------|---------|

( キ )  7

- |             |             |
|-------------|-------------|
| ① 『アーサー王物語』 | ② 『神曲』      |
| ③ 『アエネイス』   | ④ 『カンタベリ物語』 |

問 2 下線部(a)の「封建社会」とは、封建的主従関係と荘園という二つの仕組みの上に成立した社会構造である。ゲルマンの従士制と並んで、封建的主従関係の起源とされるローマの制度とは何か。下記の選択肢からもっとも適切な語を一つ選び、その番号をマークしなさい。 **8**

- ① 双務的契約    ② 貨幣経済    ③ 商人ギルド    ④ 恩貸地制度

問 3 下線部(b)のローマ・カトリック教会に関する以下の文章を読み、問題に答えなさい。

ローマ・カトリック教会は西ヨーロッパ世界全体に普遍的な権威をおよぼしたが、皇帝や国王など世俗権力の影響を受け、聖職売買など様々な弊害が生じるようになった。これに対して、10世紀以降( A )を中心に起こった改革運動を推し進めた教皇グレゴリウス7世と神聖ローマ皇帝ハインリヒ4世とのあいだで( B )が始まった。

( A )( B )にそれぞれあてはまる語のもっとも適切な組み合わせを一つ選び、その番号をマークしなさい。 **9**

- ① A シトー修道会                      B バラ戦争  
② A クリュニー修道院                  B 叙任権闘争  
③ A フランチェスコ修道会              B 百年戦争  
④ A シトー修道会                      B 教会大分裂

1077年に皇帝ハインリヒ4世と教皇グレゴリウス7世のあいだで起こったできごとをさすもっとも適切な語を一つ選び、その番号をマークしなさい。 **10**

- ① ロンバルディア同盟                      ② ヴェルダン条約  
③ ヴォルムス協約                          ④ カノッサの屈辱

問 4 下線部(c)の「戒律」のモットーとは何か。下記の選択肢からもっとも適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 11

- ① 自然に帰れ。
- ② なすに任せよ。
- ③ 人は信仰によってのみ義とされる。
- ④ 祈り、働け。

問 5 下線部(d)のスコラ学において主に議論された論争について、下記の選択肢からもっとも適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 12

- ① 魂の救済はあらかじめ神によって決定されているという予定説。
- ② キリストを神と同一視するか、人間であるとするかをめぐるキリスト論。
- ③ 普遍は、現実の実体として存在するか、それとも思考の中に存在するにすぎないのかをめぐる、実在論と唯名論との普遍論争。
- ④ 魂の救いは善行にはよらず、キリストの福音を信じることのみによる福音信仰。

問 6 下線部(e)の十字軍のうち、13世紀前半に派遣された第4回十字軍がビザンツ帝国の首都を奪って建てた国は何か。下記の選択肢からもっとも適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 13

- ① イェルサレム王国
- ② ラテン帝国
- ③ 東ローマ帝国
- ④ オスマン帝国

問 7 下線部(f)の美術に関しては、西のローマ教会と東のコンスタンティノープル教会のあいだで聖像をめぐる対立があり、両者の断絶を深めた要因の一つとなった。ローマ教会の教皇( A )はゲルマン人への布教を熱心に行い、その手段として聖画像の使用を認めた。一方、ビザンツ皇帝( B )は、726 年に聖像禁止令を發布した。

( A )にあてはまるもっとも適切な語を一つ選び、その番号をマークしなさい。 14

- |            |               |
|------------|---------------|
| ① グレゴリウス7世 | ② ウルバヌス2世     |
| ③ グレゴリウス1世 | ④ インノケンティウス3世 |

( B )にあてはまるもっとも適切な語を一つ選び、その番号をマークしなさい。 15

- |              |            |
|--------------|------------|
| ① ユスティニアヌス大帝 | ② ウラディミル1世 |
| ③ レオン3世      | ④ オットー1世   |

〔Ⅱ〕 次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。解答用紙は(その1)を使用すること。

ウィーン体制は、フランス革命とナポレオンによって広まった自由主義と国民主義を抑制し、ヨーロッパの政治的現状維持を目指す保守的体制であった。しかしウィーン体制のもとでも、自由主義、国民主義の運動は各地で生じ続けた。1815年、イェナ大学で結成されてドイツの自由主義運動を主導した(ア)は、その代表的な事例である。また、1810年ころからラテンアメリカ諸国では独立運動が開始され、1820年代にはキューバを除くほとんどの国が独立を達成し、大西洋を隔てながらもウィーン体制を動揺させた。バルカン半島で生じたギリシア独立戦争も、フランス革命に影響を受けたものであった。

1830年、七月革命<sup>(c)</sup>によってフランス国王シャルル10世は王位を追われ、新政府が樹立された。革命は(A)によって率いられたが、新政府の樹立に関しては(B)が主導権を握り、オルレアン家のルイ＝フィリップを国王に即位させた。七月革命を受けて、反乱は全ヨーロッパに広がった。これらの反乱はいずれも鎮圧されたが、こうした状況を前に、西欧諸国はメッテルニヒの反自由主義・反国民主義的な政治姿勢に協調しなくなっていく。

ウィーン体制を終焉させた1848年革命は、ヨーロッパ各地で起こった革命状況の総称である。フランスでは、議会内の政府反対派による制限選挙制度を改革しようとする運動がパリの労働者蜂起を促し、共和制を樹立すると同時に、社会革命を目ざす運動に転化していく。1848年、七月王政が倒され、第二共和政が樹立される。臨時政府には、社会主義者(イ)や労働者の代表も加えられた。しかし有産層や農民は急進的な改革を望まず、男性普通選挙制による4月の選挙で社会主義者は大敗した。

この革命に促されるように2月末から3月にかけてドイツ各地で動揺が起こり、ベルリンとウィーンに三月革命が発生した。この状況下でのオーストリア帝国の動揺は、諸民族の独立運動を誘発した。イタリアでは、1848年3月にミラノやヴェネツィアで暴動がはじまり、サルデーニャ王国はオーストリアに宣戦布告した。また、1849年2月にローマ共和国が成立し、青年イタリアを率いた

(ウ)もこれに参加した。チェコでは民族運動が発生し、6月のプラハでの労働者蜂起に至る。プラハでは初のスラブ民族全体の会議が開催されたが、これは、ドイツ人(オーストリア人)とマジャール人の接近、そしてドイツ統一のために開かれた(エ)に対抗したものであった。ハンガリーでも4月に独立運動が生まれ、その後(オ)に率いられた独立政府がオーストリアと対決した。またその影響は大陸の外にもおよび、イギリスのチャーティスト運動や、アイルランドでの自治要求運動を活気づけた。

一連の運動は反革命勢力の攻勢によって、比較的短期間で敗北する。しかしその影響はヨーロッパのほぼ全域に及んでウィーン体制を崩壊させた。多くの国では、この革命の波を克服するために、新しい政治体制が構築されることになった。フランスではルイ・ナポレオンが人民投票によって皇帝に即位し、独裁体制をつくりあげた。ナポレオン3世は国内の人気維持と資本家の要求を満たすため積極的な対外政策を推進したが、1870年、普仏戦争の敗北によって第二帝政は崩壊する。同じころ、ドイツとイタリアでは、上からの国家統一の道がつけられた。こうして1848年革命は、19世紀後半に自由主義・国民主義・社会主義運動が拡大する転換点となった。

問1 (ア)に入る語としてもっとも適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 16

- |          |             |
|----------|-------------|
| ① デカブリスト | ② カルボナリ     |
| ③ 白いバラ   | ④ ブルシェンシャフト |

問2 (イ)に入る語としてもっとも適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 17

- |          |          |
|----------|----------|
| ① サン・シモン | ② ルイ・ブラン |
| ③ フーリエ   | ④ プルードン  |



問 3 ( ウ )に入る語としてもっとも適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 18

- ① マツツイーニ
- ② バドリオ
- ③ カヴール
- ④ ヴィットーリオ・エマヌエーレ2世

問 4 ( エ )に入る語としてもっとも適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 19

- ① ベルリン会議
- ② ウィーン会議
- ③ フランクフルト国民議会
- ④ ローザンヌ会議

問 5 ( オ )に入る語としてもっとも適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 20

- ① ブハーリン
- ② コシュート
- ③ ローザ・ルクセンブルク
- ④ ホルティ

問 6 ( A )と( B )について、それぞれに当てはまる語の組み合わせとしてもっとも適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 21

- ① A = 無政府主義者 B = 立憲君主派
- ② A = 無政府主義者 B = 山岳派
- ③ A = 共和主義者 B = 立憲君主派
- ④ A = 共和主義者 B = 山岳派

問 7 下線部(a)に関して、ラテンアメリカにおける独立運動の主体としてもっとも適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 22

- ① ペニンスラール
- ② クリオーリョ
- ③ メスチーソ
- ④ ムラート

問 8 下線部(b)に関して、1826年からギリシアを支援して介入した国としてふさわしくないものを選び、その番号をマークしなさい。 **23**

- ① イギリス
- ② フランス
- ③ ロシア
- ④ オーストリア

問 9 下線部(c)に関して、七月革命の影響で独立を果たした国としてもっとも適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 **24**

- ① ベルギー
- ② ノルウェー
- ③ ポーランド
- ④ ブルガリア

問10 下線部(d)に関して、反革命を擁護したロシアは、自身の国際的な立場が有利になった機会を利用して南下政策を推進しクリミア戦争を開始するも、ロシアの南下を懸念する他のヨーロッパ諸国の介入によって、その南下は阻止される。クリミア戦争の講和条約としてもっとも適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 **25**

- ① パリ条約
- ② サン・ステファノ条約
- ③ 再保障条約
- ④ ベルリン条約

問11 下線部(e)に関して、ナポレオン3世が行った対外政策として不適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 **26**

- ① インドシナ出兵
- ② アロー戦争
- ③ イタリア統一戦争
- ④ アヘン戦争

問12 下線部(f)に関して、ドイツとの仮講和条約に反対してフランスで樹立された政権としてもっとも適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。

**27**

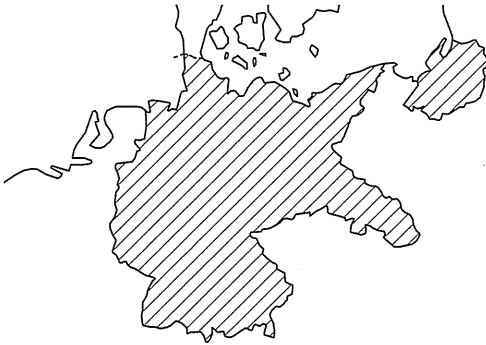
- ① 第四共和政
- ② 臨時国防政府
- ③ ヴィシー政府
- ④ パリ・コミューン

問13 下線部(g)に関して、1866年にイタリア王国の領地に併合された地域として、もっとも適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 28

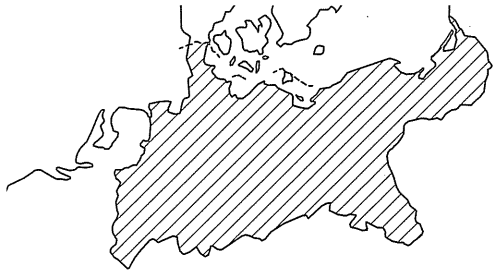
- ① 南チロル
- ② ヴェネツィア
- ③ サルディーニャ
- ④ ローマ教皇領

問14 下線部(g)に関して、1871年のドイツ帝国領域としてもっとも適切なものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 29

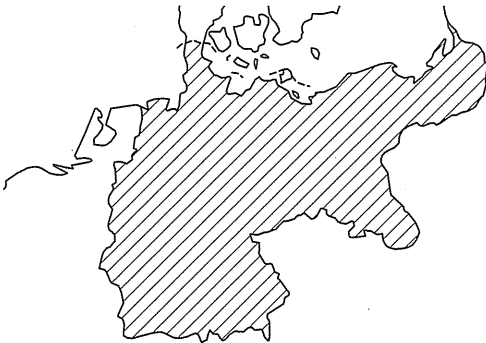
①



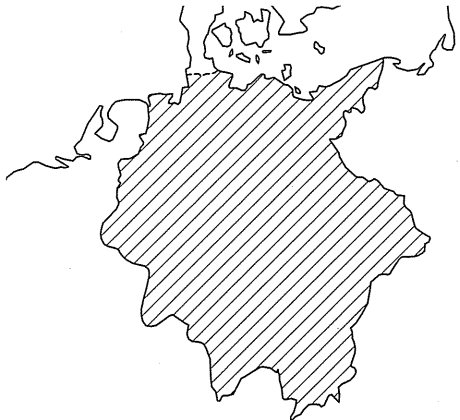
②



③



④



問15 下線部(g)に関して、ドイツから除外されたオーストリアは、オーストリア  
=ハンガリー帝国として再編された。このことを何と呼ぶか。もっとも適切  
なものを選び、その番号をマークしなさい。 30

- |             |           |
|-------------|-----------|
| ① サイクス=ピコ協定 | ② レーテ     |
| ③ アウスグライヒ   | ④ コンコルダート |

〔Ⅲ〕 以下の文章を読んで、設問に答えなさい。解答用紙は(その2)を使用すること。

中国の春秋戦国時代には「諸子百家」と呼ばれる様々な思想家が活動した。例えば、戦国諸国の戦略的な外交を論じた縦横家として蘇秦や張儀、無差別の愛(兼愛)と戦争の否定(非攻)を説いた『(ア)』の著者とされる(ア)、法律による統治を主張し、法家と呼ばれた商鞅や『韓非子』を著したとされる(イ)、『(ウ)道徳経』を著したとされ、無為自然を説いて荘子とともに道家の祖となった(ウ)などがある。鄒衍が体系化した(エ)家は、五行説と結びついて「(エ)五行説」として、現在に至るまで東アジアの思想に影響を及ぼしている。なかでも、その言行が『論語』に残されている(オ)が確立した儒家は、その後の中国のみならず、東アジアの思想に決定的な影響を与えた。秦では法家が重んじられ、前漢初期までは加えて老荘思想も比較的重視されたが、第7代皇帝の(カ)帝は強力に儒教化を推し進め、董仲舒の建言を入れるという形で『易経』『詩経』『書経』『礼記』、時代の呼称ともなった『(キ)』の「五経」を教授する役職「五経博士」を設置するなどした。こうした流れの中で、諸子百家は儒教によって再解釈されていくことになるが、国家は、法家を重んじた法律なしに統治することはできず、儒家が国家の根本となって以降も、法律はいわば必要悪という形で存在し続けた。もともと儒家的なものではなかった法律は、かえって唐では(ク)格式として高度に整備されるに至り、この体系を国家の基幹とする(ク)体制は、朝鮮や日本にも受け入れられた。しかし(ク)体制を積極的に受け入れた日本は、朝鮮に比べれば、儒教は社会に根付かなかった。また、唐宋代以降科挙がますます広がると、科挙の出題の中心となった儒教經典の研究に新たな展開が見られ、朱子と呼ばれる南宋の(ケ)は、北宋の周敦頤、程顥、程頤らの学を引き継ぎ、体系化して朱子学を開いた。朱子学は、南宋では一時期弾圧を受けたものの、(コ)帝となった朱元璋が開いた明朝以降は官学として国家的に認められるに至った。なお、この紀元前5世紀ころには、南アジアではガウタマ=シッダールタが仏教を開き、イランではゾロアスター教がこのころ成立し、ギリシアでは諸学問を修め議論を展開したソクラテス、その弟子で『国家』

を著した( サ )が活躍するなど、世界的にもその後大きな影響を及ぼしている偉大な思想家が連続して輩出したため、ドイツの哲学者カール・ヤスパースはこの時期をとくに「枢軸時代」と名づけた。

問 1 ( ア )～( サ )に適切な語を入れよ。なお、( カ )は漢字一文字、( サ )はカタカナであるが、他はすべて漢字二文字である。

問 2 ( カ )帝の時代に紀伝体の『史記』を書いた人物の姓名を記せ。

問 3 『史記』に続く正史である『漢書』を書いた人物の姓名を記せ。

問 4 『漢書』に続く正史である『後漢書』には、後漢の光武帝が日本に印綬を賜ったとの記載があるが、この印と思われるものが1784年、九州で発見されている。この印の名を常用漢字6文字で記せ。

問 5 儒教思想の上で( ケ )と対立し、号として「象山」を名乗り、後世に影響を与えた思想家の姓名を記せ。

問 6 ( ケ )の影響を受け、号として「陽明」を名乗り、「知行一致」「心即理」を唱えた明代の思想家の姓名を記せ。

問 7 ゴロアスター教では、この世を光明神と悪の神の闘争によって解釈する。光明神はアフラ＝マズダというが、悪の神は何というか。カタカナで答えよ。



